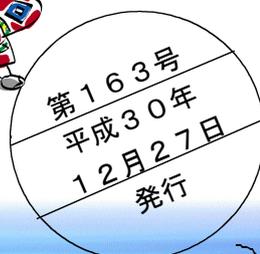


水通信



「水通信」は、水資源機構全体や中部管内における取り組みに関する情報を、中部管内の関係者（関係県、関係市町村、関係土地改良区、およびその他関係機関）の皆様方に、直接配信させていただいております。

※目次の事業所名等をクリックすると、その事業所等の記事に移動します。

目次

☆【[巻頭言](#)】

- 中部支社事業部長 壺岐 宏

☆【[中部管内水源情報](#)】

☆【[新着情報](#)】

[中部支社](#)

- 今や80歳以上の4人に1人。認知症サポーター養成講座を開講

[豊川用水](#)

- 新城市立図書館に豊川用水の広報ブースがオープン

[木曽川水系連絡導水路](#)

- 環境学習会でアユの人口種苗を学んで

[愛知用水](#)

- 「用水の仕事に就きたい」中学生の職場体験
- 「第5回愛知池ハーフマラソン&ファミリーラン大会」に1,440名参加

[木曽川用水](#)

- 国交省による「タブレット端末による施設点検」の視察
- 木曽川水系連絡導水、岩屋ダム、木曽川用水総合管理所による合同安全協議会を実施
- 降雨による放流中止で、サツキマスの「出前授業」を開講
- 出前授業と総管体験学習会を実施

[岩屋ダム](#)

- 眺めの良さを目指して、岩屋ダム周辺を修景伐採作業
- 下呂市金山町の駅伝大会に5位入賞

[阿木川ダム](#)

- 学習会と出前講座で、「地元の小学生にダムの役割を」

[徳山ダム](#)

- 水質テロに備え、対応訓練を実施
- 徳山ダム周辺の山々が白いドレスに衣替え

[長良川河口堰](#)

- 今年も元気な仔アユを確認
- 今年も銀毛アマゴが人工河川にやって来ました

味噌川ダム

- パトロールカー「木曾かめ君」の来所で交通安全を誓う

三重用水

- 今年も交通安全啓発活動「ミルミルウェーブ」に参加
- 水資源の大切さを親子50名に出前講座（深溝水土里を守る会）

☆【イベントカレンダー】

- 平成31年1月

☆【編集後記】

- 担当課 中部支社事業部 設備課

巻頭言

【中部支社事業部長 壺岐 宏】

11月が過ぎ12月となっても比較的暖かいと感じておりましたが、中旬あたりから急に冷え込んできて冬のらしい気候となりました。風邪などひかないよう体調管理に気をつけたいところです。

中部支社管内の今年は、7月には非常に多くの雨が降り、管内のダムでもこれまでに経験したことのない操作を行い、また、その後1ヶ月間ほとんど雨が降らず、節水に備える準備を行わなければならないなど、雨の降り方が極端な一年となりました。

また、西日本や北海道など、東海以外の地域では豪雨災害や地震が発生するなど、多くの災害に見舞われた年でもありました。

今年も残すところわずかとなり、来年5月には新天皇が即位され新しい元号となります。

近年、豪雨や地震など災害の発生頻度が上がっているように感じていますが、新しい年には、穏やかな気候のもと、安定した水供給となることとともに、関係者の皆様方とこの地域がますます発展することを願っております。

来年も引き続き、水資源機構中部支社へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

中部管内水源情報

【中部管内水源情報】

中部管内の各ダムにおける12月26日現在の降雨及び利水貯水率については、下表のとおりとなっています。

木曾川水系の4ダム（牧尾・岩屋・阿木川・味噌川ダム）の12月降雨量は平年を上回る状況（平年比104%～150%）となり、4ダム合計の貯水率は91%（平年比107%）と、平年を上回る貯水状況となっています。

なお、牧尾ダムでは12月からは主として発電運用期間（翌年3月31日まで）となり、3月末にかけて貯水量が計画的に低下していきます。

豊川水系の12月降雨量は、宇連ダムは平年を下回る状況（平年比92%）、大島ダムは平年を上回る状況（平年比131%）であり、豊川用水全体（宇連・大島ダム、各調整池）の貯水率は79%（平年比101%）と平年と同程度の貯水状況となっています。

中部管内各ダムにおける12月の降雨（平年比）及び利水貯水率（12月26日現在） 単位：（%）

	牧尾ダム	阿木川ダム	味噌川ダム	岩屋ダム	宇連ダム	大島ダム	中里ダム	徳山ダム
降雨の平年比	104	145	150	120	92	131	61	68
利水貯水率	80.6	89.1	97.7	100	73.3	88.3	83.3	100

- ・ 中部支社管内の各ダム貯水状況等は、中部支社HP内の「水源情報」でご覧いただけます。
中部支社HP <http://www.water.go.jp/chubu/chubu/index.html>

「水源情報コーナー」

◆リアルタイム情報 <http://www.water.go.jp/mizu/chubu/realtime/index.html>

◆中部管内の水源状況（平日更新） <http://www.water.go.jp/mizu/chubu/report/>

◆ダム貯水状況グラフ、節水情報など

<http://www.water.go.jp/chubu/chubu/sessuijyouhou29-1.html>

新着情報

中部支社

○ 今や80歳以上の4人に1人。認知症サポーター養成講座を開講

今年、中部支社のお隣に名古屋の新たな観光名所「金シャチ横丁」が誕生し、訪ねてくる元気なお年寄りの姿を目にするようになりました。

今年厚生労働省が発表した平成29年の日本人の平均寿命は、女性が87.26歳、男性が81.09歳と、過去最高を更新しました。

高齢者化社会への加速に伴い、80才以上の4人に1人の割合で認知症を発症している報告もあり、中部支社では、こうした現状に鑑み「正しく認知症を理解したい」、また「困っている人を見つけた時に適切なサポートをしたい」を目的とした「認知症サポーター養成講座」を12月6日（木）に開催しました。

参加者の中には、家族が認知症になった人もおり、全員が認知症になったことを想定して、どのようなサポートをするべきなのかを学ぶとともに、いつか自分自身もなり得る認知症について真剣に考える機会となりました。

この養成講座の終了後、受講生にサポーターの証としての「オレンジリング」が配付され、認知症サポーターとしての意識が高まるとともに、こうした支援が「誰もが住みやすい街」づくりにつながることを願わずにはられませんでした。



■講座には15名の職員が参加



■サポーターの証オレンジリング

豊川用水総合事業部

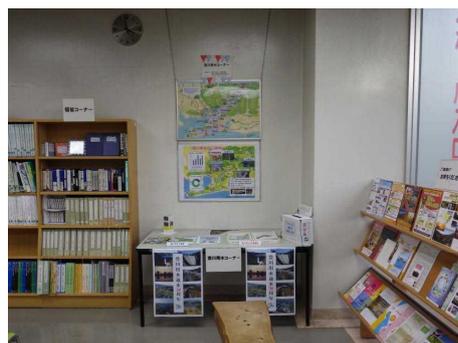
○ 新城市立図書館に豊川用水の広報ブースがオープン

12月1日（土）、新城市立図書館に豊川用水の広報ブースがオープンしました。

豊川用水通水50周年を機に、「～豊川用水の受益地である渥美半島の発展は、水源地域を抱える新城市民の協力によるものであること～」を改めて発信するために、広報ブースを新城支所内環境整備チーム主導で設けたものです。

広報ブースでは、豊川用水の生い立ち、概要をはじめとした豊川用水に関する展示物や、豊川用水管内で配布されているダムカードに関する情報提供、新城市内で現在実施している工事の概要など、豊川用水に関する様々な情報を得ることができます。

また、今後は広報ブースの内容を随時更新していく予定です。お時間のあるときに、是非新城市立図書館に足を運んではいかがでしょうか。



■ここで豊川用水の役割がわかる

木曾川水系連絡導水路建設所

○ 環境学習会でアユの人口種苗を学んで

木曾川水系連絡導水路建設所では、環境学習会の一環として、川にまつわる学習会を毎年開催しています。

今年度はアユの人口種苗の生産について学ぶため、長良川河口堰とと共に、12月6日（木）に岐阜県美濃市にある一般財団法人岐阜県魚苗センターを見学しました。

同センターは、岐阜県内の河川に放流するアユのうち5割強を生産する施設です。見学当日は、今年の秋に川で採捕したアユから採卵しふ化した約1 cmの仔アユが飼育池内を泳いでいるところを見学したり、また仔アユの餌となるプランクトンの生産についての説明を受けました。

意見交換の場では、職員が日頃抱えるアユに関する疑問について解説いただき、また今年度から始まった長良川河口堰地点で採捕したアユから採卵用親魚を飼育する取り組みについての研究経過等を説明してもらったなど、アユについて知識を得た1日となりました。



■ 船木事務局長による説明



■ 仔アユの飼育施設を見学

愛知用水総合管理所

○ 「用水の仕事に就きたい」中学生の職場体験

皆さんが中学生だった頃、目指す職業はもう決まっていたか。なぜそんなことを尋ねたのかというと、12月5日から3日間の日程で地元のみよし市立三好丘中学校2年生の男子生徒一人が「職場体験」にやってきました。彼は将来、用水を管理する仕事に就きたい、と自らが体験できる職場として愛知用水を探してきたからです。

その志に胸を打たれながら、愛知用水の歴史や事業概要についての説明を皮切りに、3日間にわたって愛知池での水質調査、幹線水路の巡視、除塵機から枯れ草等のゴミを取り除き集積、各施設での点検、作業を行っていただきました。

ひたむきに取り組む様子を間近で見ながら、愛知用水の思いを伝えることができたかどうか、社会人として模範となる行動をとっていただろうかと、職業体験の3日間は、職員一同初心に戻った期間でもありました。



■ 職業体験も熱が入る



■ 除塵機のゴミの取り除き作業

○ 「第5回愛知池ハーフマラソン&ファミリーラン大会」に1,440名参加

12月16日（日）、晴天のもと愛知池を周遊する「愛知池ハーフマラソン&ファミリーラン大会」が、開催されました。東郷町内の企業などの実行委員会が主催のこの大会は、毎年12月第三週日曜日に開催され、名古屋エリアでの本格的なハーフマラソンは数少ないことや、ファミリーランの名の通り子どもも気軽に参加できる種目も多くあることから人気を博しています。

当日は、1周約7.4kmの愛知池周回道路を約3周するハーフマラソンの部、1周するジョギングの部（約7km）、ファミリーランの部（ペア・約2km）、ハーフ&ファミリー・ハーフ&ジョギングの各々ダブルエントリーに、計1,440人の参加者がありました。

参加者の皆さんは、愛知池を周遊しながら、水と緑を満喫されたことと思います。そしてこれをきっかけに、愛知用水、そして水の大切さを考えるきっかけになればと、大会に協力する機構職員として思わずにはいませんでした。

木曽川用水総合管理所

○ 国交省による「タブレット端末による施設点検」の視察

11月21日（水）国土交通省総合政策局公共事業企画調整課によるタブレット端末を用いた施設の直営点検の視察を受けました。

当日は概要説明をした後、マクロを用いた帳票の作成方法、クラウドサーバーの使い方、タブレットの操作方法等、一連の流れを実機を用いて説明し、事務所でのプレゼンテーションの後、木曽川大堰ゲート室において、実際にタブレットを用いての点検体験をしてもらいました。

この視察により、タブレット端末による施設点検の理解が深ったようで、今後の検討の参考にしたいというお礼の言葉がありました。



■タブレットを手にする国交省職員

○ 木曽川水系連絡導水、岩屋ダム、木曽川用水総合管理所による合同安全協議会を実施

12月13日（木）木曽川水系連絡導水路建設所、岩屋ダム管理所、木曽川用水総合管理所の3事務所による合同安全協議会を実施しました。当日は、美濃加茂で工事を行っている「木曽川右岸緊急改築事業坂祝用水路前平工区外改築工事」の安全パトロールを実施し、パトロール後の結果報告、指摘事項の確認を行いました。

パトロール後の結果報告に基づいた工事の安全対策を行うと共に、今後も無事故、無災害を目指して事業を実施していきます。



■安全パトロール前の打合わせ



■パトロールをした美濃加茂の現場

○ 降雨による体験放流中止で、サツキマスの「出前授業」を開講

12月3日（月）、稲沢市立長岡小学校全児童によるサツキマス稚魚の放流体験学習会を予定していましたが、雨の影響で、子どもたちの放流は中止となりました。

この体験学習会は、地元小学校の児童を対象に、木曾川漁業協同組合と愛知県が行う水産資源の増殖の取り組みや木曾川の自然環境への興味、また木曾川への親しみを深めてもらうことを目的としたもので、毎年、木曾川大堰の左岸魚道で実施しています。今回で15回目を迎える予定でしたが、開催以来初めての中止となり、楽しみにしていた児童は残念そうでした。

そこで漁協と愛知県、機構が、急遽5年生を対象としたが、サツキマスの生態についての出前授業を開催したところ、博士に扮した職員にさまざまな質問が投げかけられるなど、好評を博しました。

今年は雨と重なり残念な結果となりましたが、子どもたちの笑顔を見ながら、来年は子どもたちの手で放流できるよう願わずにはいられませんでした。

なお、用意した約1,500匹（約140kg）のサツキマス稚魚は、木曾川漁業協同組合、愛知県及び機構の職員たちの手により木曾川に放流をしました。大きくなれ、と願いを込めて。



■ 出前授業でサツキマスを学習



■ 稚魚 1500 匹を木曾川に放流

○ 出前授業と総管体験学習会を実施

12月14日（金）木曾川用水総合管理所では、長岡小学校4年生22名を対象に「木曾川用水」の出前授業と木曾川用水総管体験学習会を実施しました。

4年生は2学期に木曾川用水など社会資本の学習を行っています。14日は、そのまとめとして木曾川用水や職員の仕事を見学するものでした。

午前の出前講座では、職員による「水に関するクイズ」や「木曾川用水の水路模型」、「水のろ過実験」などで学習しました。

午後は木曾川用水総合管理所を訪れ、木曾川用水の役割を学習、操作室の見学、警報車の乗車体験、所長決裁体験など、機構職員が日頃行っている業務の一部を体験しました。長岡小学校の横には海部幹線水路があり、児童の日常の景色には機構施設があります。その施設に流れる水が地域の農業・水道・工業に使われ、多くの人に役立っていることを知ってもらえたのではないかと思います。

木曾川用水の学習を行った経験が児童の記憶に残ることを期待しています。



■ 木曾川用水の要、操作室を見学



■ 人気だった「水に関するクイズ」



■ 水路模型で水の流れを学習

岩屋ダム管理所

○ 眺めの良さを目指して、岩屋ダム周辺を修景伐採作業

11月30日（金）に岩屋ダム周辺において、枝打ちや下草刈り、間伐をする修景伐採作業を行いました。この活動は、岩屋ダムを「美しい環境に包まれた魅力的で親しまれるダムにする」、また「四季を通じて人々が訪れる観光・交流の場にする」ことを目的とした「岩屋ダム水源地域ビジョン」の活動の一環として行われています。



■作業開始前の朝礼の様子



■複数の団体が伐採作業に参加

当日は、岩屋ダム水源地域ビジョン推進協議会のメンバーが参加し、約3時間、気持ちの良い汗を流しました。今後も岩屋ダムを活かした水源地域の活性化を図るべく活動を行っていきます。



■チェーンソーを使って伐採する職員



■伐採した木々

○ 下呂市金山町の駅伝大会に5位入賞

12月2日（日）、下呂市金山町で開催された駅伝大会に、中部電力株式会社と岩屋ダム管理所の合同チームで出場しました。この駅伝は、金山町内で設定された計9.4kmのコースを5区間に分けて走るものです。当日は快晴で、先日までの寒さが嘘のような温暖な気候のなか、皆ベストを尽くして走り抜き、一般男子（高校生以上）の部において15チーム中5位入賞という成績を収めました。

来年はさらに良い成績を収められるよう頑張りたいと思います。



■中電との合同チーム右二人機構職員

阿木川ダム管理所

○ 学習会と出前講座で、「地元の小学生にダムの役割を」

阿木川ダムでは、水源地域ビジョン活動の一環として、地元の小学校に出向いての出前講座や児童をダムに招いての体験学習会を行っています。先月から今月にかけて、3校の児童を対象にした学習会を開催しました。子どもたちの心にダムの役割、水の大切さは伝わったでしょうか。その内容を紹介していきます。

①東野小学校5年生を迎えての体験学習会

11月9日（金）、恵那市立東野小学校5年生の17名が来所し、模型実験で川の流れ、ダム堤体内を見学しました。さらに貯水池の水を顕微鏡で観察したり、ダム職員の仕事の一部を体験してもらいました。来所前と後では、ダムの働きの理解が深まったのではないかと期待しています。



■ 模型実験を見つめる児童たち



■ ダム堤体内の見学



■ 体験学習会のまとめ

②長島小学校で出前講座

11月15日（木）は、恵那市立長島小学校にて、5年生を対象とした出前講座を行いました。3クラスそれぞれで講座を実施し、ダムの役割や水質保全について説明しました。

5年生は、社会科見学で用水路や浄水場等の見学を行っているため、地図を使って、ダムや用水路から浄水場で処理された水が生活用水として届く、「水の流れ」についての説明も行いました。

出前講座でしたが、東野小学校同様、貯水池の水を顕微鏡で観察する実験を行う等、水質保全に関する阿木川ダムの取組みを説明しました。



■ 水質保全に関する取組みを説明

③阿木小学校での出前講座

12月14日（金）は、恵那市のお隣り中津川市に出向き、阿木小学校4年生を対象とした出前講座を開催しました。

阿木川ダムでは、ダムの役割を理解していただくとともに、水質等の環境に対する知識や興味を深めてもらえるような活動を継続して行っています。

【出前講座・体験学習会のお問い合わせ・お申し込み】
阿木川ダム管理事務所 TEL (0573) 25-5295

徳山ダム管理所

○ 水質テロに備え、対応訓練を実施

12月7日（金）徳山ダムでは、不審者が毒物を貯水池に撒いたことを想定した水質テロ事案対応訓練を警察、消防、徳山ダム管理所合同で実施しました。警察が現場に急行し、不審者の身柄確保、毒物の回収と搬送、消防による貯水池の中和作業を行い、迅速かつ密接な連携対応を相互に確認しました。



■現場にかけつけた警察（訓練）



■消防による貯水池の中和（訓練）

○ 徳山ダム周辺の山々が白いドレスに衣替え

12月に入り次第に寒さが厳しくなってきましたが、真冬の季節風が強まった12月9日に徳山ダム周辺の山々に雪が降り積もり、冬本番を迎えました。

うっすら雪化粧をしたダムは、旅情をそそり、被写体として人気を集めていますが、来訪される際は、冬用タイヤを装着するなど十分に安全に留意してお越し下さい。

徳山ダムのダムサイト公園は冬季も午前9時から午後5時まで開放していますが、積雪や凍結による危険を防止するため、堤体部や展望台などの立入を禁止しています。

また、徳山ダムより先は、平成31年3月8日まで冬期間通行止めで、徳山会館は休館しています。

詳しくは徳山ダム管理所ホームページをご覧ください。

<http://www.water.go.jp/chubu/tokuyama/>



■冬も人気が高い徳山ダム

長良川河口堰管理所

○ 今年も元気な仔アユを確認

長良川河口堰では、長良川中流域でアユのふ化がピークを迎える時期（10月～12月）に合わせて、毎年海へと下る仔アユ（生まれたばかりのアユ）の調査を行っています。

今年も、12月11日に職員が直営で右岸の魚道で調査を実施し、元気な仔アユがたくさん通過する様子を確認することができました。伊勢湾で大きくなり、来春に再び元気に堰を遡上していくことを期待しています。

詳しくはこちらのホームページをご覧ください。

http://www.water.go.jp/chubu/nagara/15_sojou/index.html

○ 今年も銀毛アマゴが人工河川にやって来ました

長良川河口堰右岸にある人工河川に、11月29日(木)30日(金)、銀毛アマゴ約1210kg(個体数に換算すると約13600尾)がやって来ました。

銀毛アマゴとは、海に降下するために海水耐性を整えたことにより体色が銀色になったアマゴのことです。海で栄養を蓄えて、川に帰って来るとサツキマスと呼ばれるようになります。

アマゴの持つ母川回帰(サケ・マスなどが海で成長したのち、産卵のために生まれた川へ帰ってくる)を利用して、アユふ化水路において1週間程度長良川の水に慣らし、12月6日(木)に、せせらぎ魚道を経由して河口堰の下流に放流するもので、長良川漁業協同組合が平成17年度から実施しており、今年で14回目を迎えました。

人工河川から海に旅立ったアマゴが成長し、来年のさつきの花が咲く頃、サツキマスとして帰ってくることを期待しています。



■人工河川で銀毛アマゴを確認

味噌川ダム管理所

○ パトロールカー「木曾かめ君」の来所で交通安全を誓う

長野県警察年末の交通安全運動の行事の一環として木曾郡内を巡回する「木曾かめ君リレー」が行われました。

木曾かめ君は、長野県木曾地方の木曾路・国道19号線を制限速度内で走行する車で、大型車両による速度超過による事故の多発に対して速度遵守を促すパトロールカーです。

木曾かめ君の来所により、警報車を運転する責任の自覚が高まったとともに、これからも交通事故防止に力を入れ、木曾路の道路環境の向上に貢献することを誓いました。



■木曾かめ君と記念写真

三重用水管理所

○ 今年も交通安全啓発活動「ミルミルウェーブ」に参加

11月29日(木)、交通安全啓発活動の「ミルミルウェーブ」が開催され、三重用水管理所も参加しました。

ミルミルウェーブは、12月1日(土)から始まる「年始特別警戒」と「年末の交通安全県民運動」に先がけた活動で、出動式を終えた後、地元企業、ボランティア団体、そして四日のキャラクター「こにゅうどうくん」と一緒に、四日市西警察署前の県道140号(通称ミルクロード)において、道行くドライバーに交通安全を呼びかけました。

三重用水管理所は、今後も一層の交通事故防止に努め、地域と連携した啓発活動に協働してまいります。



■県道140号で交通安全を呼びかけ

○ 水資源の大切さを親子50名に出前講座（深溝水土里を守る会）

12月9日（日）鈴鹿市深伊沢地区市民センターにおいて、地元「深溝水土里を守る会」による「水資源の講習会」が開催され、三重用水管理所は三重用水土地改良区と協働で、水資源の大切さと三重用水事業について説明する出前講座を行いました。

当日は、深溝地区子供会をはじめ、周辺地域から親子50名の参加があり、三重用水の役割、水にまつわる知識や節水についてのあれこれを〇×クイズにし、楽しみながら理解を深めてもらいました。



■ 50人の親子を前に出前講座

イベントカレンダー

中部管内関連のイベントカレンダー

【平成31年1月】

日	曜	機構イベント	地域のイベント
4	金	仕事始め	
13	日		ロングトライアルマラソン女子30Kin愛知池
26	土		おんたけスキー交流会（～27）
30	水	「水通信」配信予定	

編集後記

【中部支社担当課：中部支社事業部・設備課】

平成最後の年の世相を表す漢字一文字は、自然災害によって多くの人が被災したことから、災害の「災」の文字が選ばれました。

戌年は、戌の文字のいわれから、自然災害が多い年という説がありますが、その説の通り今年、2月上旬の北陸地域での豪雪に始まり、4月の島根県西部地震、6月の大阪府北部地震、7月の西日本豪雨、夏季の猛暑、9月の北海道胆振東部地震、といった災害に加え、台風もまた日本列島への上陸数が平均を上回る5回を記録した年でもありました。

台風7号は甚大な被害となった7月の西日本豪雨となり、台風12号は進路が東から西、西から東と異例のコースを辿り逆走台風と言われ、台風20号は関西方面へ甚大な被害をもたらし、台風21号は25年振りとなる非常に強い勢力での上陸となり、台風24号では高潮と重なり過去最高潮位が記録されるなど、災害史に残る年といえるかもしれません。

やがてくる新しい年は、災害のない年になることを願うとともに、「災害は忘れたころにやってくる」という言葉を戒めに、いつ何時災害がおきても、適切な対応が執れるよう防災意識を高めていきます。

